

## インド投資の未来

インドでは数多くのスタートアップ(起業)が輩出されている。米国や中国などの企業・ファンドが巨額の投資を行い、独自のイノベーションシステムが存在する。これらのスタートアップ企業は同時に、社会課題解決にも一役買っている。

(2019年10月18日開催、日外協 アジアシリーズ講演会から)

ALES Global, LLC

CEO 石崎弘典

### 押し寄せる大規模イノベーション

当社は、海外スタートアップの代理人業務、および日本企業向け海外投資アドバイザー業務を行っている。

世界ではすでにビジネスというレベルではなく、インダストリー(産業)と呼ぶべき規模の新しい社会イノベーションが起こっている。それは、規制や既得権益の存在する従来型インフラが整った、いわゆる先進国以外で生まれている。

インドに進出する日本企業は約1500社、年に100社増のペース。インドを有望とみる日本企業は多い。ただ、一方で課題もある。ローカル企業の競争力が強い中で、既存路線による現地での販路拡大は著しく困難だ。現状の日系企業に以前ほどの体力がない中で、今後長い時間をかけてインド市場を開拓することは、現実的な選択肢と言えない。



(いしざき・ひろのり)

東京大学文学部卒業(フランス語フランス文学専修)、パリ大学ソルボンヌ留学、ヨーロッパアカデミー(Diplomat修了)。インド大手会計事務所 Corporate Catalyst India 入社、Japan Desk の統括マネージャーとして3年間デリーに駐在勤務し、西インド地域

のJETRO 正式アドバイザーに任命される。アジアのテック企業に投資をするシンガポール VC ファンド Rebright Partners に入社、日本拠点責任者を務める。2019年4月 ALES Global を設立、最先端イノベーションを生み出す世界のスタートアップの代理人業務等に従事する。

✉ [ishizaki@alesglobal.com](mailto:ishizaki@alesglobal.com)

### 「ない」はスタートアップの追い風

加速するデジタルトランスフォーメーション時代において、アジアではスタートアップとベンチャーキャピタルのエコシステム(ビジネス生態系)ができあがっている。インドでも評価額10億ドル以上のユニコーン企業が、様々な分野で続々と誕生している。

新興国では、先進国の発展形態とは違い順番を飛び越して一気に最先端なステージへとたどり着く「リープフロッグ(カエル跳び)現象」が顕著だ。さらに、新興国では既存のインフラを増築するより、最先端システムを導入する方がコストも安く収まる。ここでは、3つの「ない」——インフラ不足、既得権益不在、規制未整備がスタートアップの追い風になり、新しい社会システムを創り出している。例えば、金融では既存金融システムの不足から、最新のデジタル金融サービスが生まれる。小売りでは物理的インフラや物流サービスの未整備により、EC市場が急成長している。医療インフラの圧倒的不足から遠隔医療サービス需要が拡大し、交通インフラの未整備により Uber など IT ベースの交通サービスが浸透する。富裕層の増加とともに、EV 普及は先進国より急速に進むだろう。

日本など先進国では起こりえない変化が圧倒的なスピードで巻き起こっているのがインドを中心とする新興国である。